



JGAP がきっかけとなり、新しい人と人の出会い、新しい農産物の流通、新しい農業ビジネスモデルの構築が各地で始まっています。「JGAP、そしてその先へ」をテーマに、最前線をお伝えしていきます。

JGAP とは……

JGAP とは、食の安全や環境保全に取り組む農業に与えられる認証です。JGAP は、農場や JA 等の生産者団体が活用する農場・団体管理の基準であり、認証制度です。農林水産省が導入を推奨する農業生産工程管理手法の 1 つです。

J G A P T O P I C S

JGAPトピックス

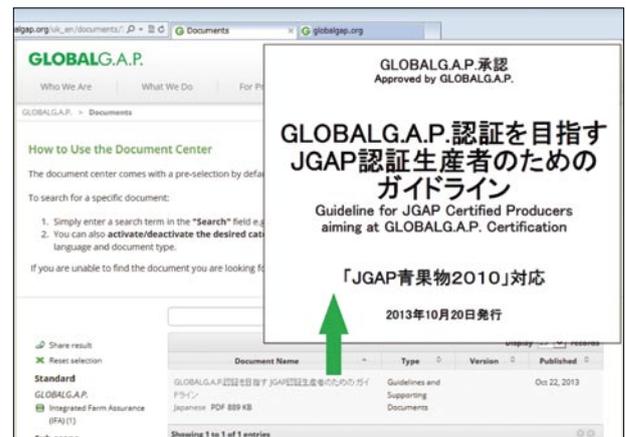
GLOBALG.A.P. (ドイツ) が JGAP 認証農場向け新ガイドラインを発表

日本 GAP 協会と GLOBALG.A.P. 事務局によって協同作成された JGAP 認証農場向け新ガイドラインが正式発表された。このガイドラインは、JGAP と GLOBALG.A.P. の基準(青果物)の共通点と相違点を簡単に理解できるように、日本 GAP 協会(日本・東京)と GLOBALG.A.P. (ドイツ・ケルン)によって協同作成され、JGAP 認証農場が GLOBALG.A.P. の導入を容易にすることが目的。これは近年、海外で広がる GFSI 承認制度の点からも有効と判断された。

JGAP は日本で最も普及している GAP である。JGAP は英語版も発行されており、日本の農場管理の良さを海外に伝える有効なツールとして活用されている。2007年11月からは第三者認証制度が始まり、日本・韓国・タイにおいて1,749認証農場(2013年3月)と普及が進んでいる。

JGAP によって日本の農場・産地は十分なレベルの食品安全・環境保全・労働安全を実現することができる。同時に、このたび欧州を中心に普及している GLOBALG.A.P. との協力関係をさらに深め、GLOBALG.A.P. 認証の取得も容易にするツールとして JGAP の利便性を一段と高めた。

欧米の小売業・食品メーカーは GLOBALG.A.P. 認証を取り基準としていることがあり、本ガイドラインによって日本産農産物の輸出促進につながる。本ガイドラインは GLOBALG.A.P. のホームページで全文を閲覧可能。



『GAPの産地リーダー養成研修』創設

日本 GAP 協会は、これまでの指導ノウハウを集約した『GAPの産地リーダー養成研修』を新たに創設した。産地を内側から支える人材の育成に特化している点で意義ある研修である。産地の競争力を高めるためには、複数の農業者で組織された産地で高度な取り組み内容を含む GAP をいかに効率よく効果的に導入するかがポイントとなる。JGAP の団体管理の手法を通じて GAP の実務者リーダーを養成し、GAP の効果的な全国普及を目指すことがこの研修の目的だ。

JGAP 認証農場は、PL 保険に無料で加入可能

PL 保険とは、被保険者によって出荷された農産物が他人に引き渡された後に、その農産物により他人の身体に障害を与え、法律上の賠償責任を負担することによって被る損害に対して保険金を支払う保険。食品事故を一度起こすと農業経営・流通経営の存続が危ぶまれる。近年は大手流通・食品事業者と取引する場合には、農場も PL 保険に加入していることが要求されることも多い。JGAP 認証農場は、共栄火災海上保険(株)の PL 保険に自己負担 0 円で加入できる。

JGAP 青果物 2010 英語版を正式発表

このたび JGAP 青果物 2010 について英語版を発表した。今後、JGAP 茶、JGAP 穀物についても英語版を発表していく予定。英語版の発表により JGAP 認証農場が海外進出する際にも、現地に JGAP を活用した日本流の農場管理を導入することが容易となり、日本の農業者の活躍の幅を広げることになるだろう。日本企業が海外から農産物を調達する際に、海外産地が適切な農場管理を実践できているか確認するためにも利用されることが想定される。

JGAP キーパーソン・インタビュー

豊田 富士雄

Fujiyo Toyoda
豊田肥料株式会社
代表取締役社長

とよだ・ふじお
1973年、慶応義塾大学法学部卒業。77年、豊田肥料株式会社入社。97年、同社代表取締役就任。現在に至る。袋井商工会議所会頭、一般社団法人全国肥料商連合会副会長、静岡県主食集荷商業協同組合理事。

農業者のベストパートナーになれるのは肥料屋ではないか

静岡県袋井市の肥料メーカー、豊田肥料株式会社。

同社は日本 GAP 協会設立当初から会員になり、JGAP の普及にも対応できるように、認定指導員資格を取得した担当者が、農業者のご相談を承る体制を整えている。

「ルビコン川を渡ろうとする農業者を支援したい」と語る代表取締役社長の豊田富士雄氏に話を聞いた。

お茶の生産法人「にしたな」の協力

—— JGAP との関わりを教えてください。

JGAP 協会の会員になったのは 10 年ほど前のことです。安全な農産物の生産過程をマニュアル化することで、お客様農業者の農場が消費者からの評価を高める事ができると考え、そのためには手間がかかってもやってみようと思いました。

JGAP 認証取得を薦めていく中で、一番協力してくれたのがお茶の法人「株式会社にしたな」さんです。「にしたな」はそれまで懐石料理屋を営むかたわら、農家が茶畑で生産した生葉を集めて荒茶の工場に斡旋する仕事をしていました。そうした中、生葉を持ってくる農家が儲からない。このままでは参ってしまう、生き残るためには、お茶に付加価値をつけていく必要を感じ、大金を投資し最新鋭の生産茶工場を作って荒茶の生産販売に乗り出したのでした。その時、「豊田さん、お茶業界は成熟産業だから、1 年に 1 回は新しいことをやっていかないとイケない。プラスになることはどんどん教えてほしい」と社長に言われたのです。そこで JGAP を薦めました。当時、JGAP に取り組む茶業経営者まだほとんどありませんでした。まずは指導員の資格を持つわが社の社員が現場に入ってコンサルしましたが、団体認証なので手間がかかり、農家さんからは「こんなことまでしなければいけないのか」と面倒くさがられたようです。しかし当社社員の粘りと「にしたな」の社員さんの熱意で、ひとつひとつ地道に説得していき認証取得にこぎつけたのでした。

—— JGAP の取り組みについて教えてください。

「ふじのくに豊田肥料 JGAP 推進協議会」をたちあげて認証取得を進めています。事務局運営の母体は豊田肥料がおこなっており、会長は前述の「にしたな」の鈴木治社長です。現在 24 農場が参加しています。作物は水稲、野菜、お茶などさまざまです。年会費もあり、定款も作り、

勉強会もおこなっています。会としての機能をしっかりと確立し入会農場を拡大すべく活動をしています。

大事なのは、JGAP を取得することがゴールではなく、認証取得をスタートとして改善改良を重ね、より良くものを作るという意識をみんなで共有することだと思っています。取り組みの結果今では JGAP を通過することで農業経営者の経営が進化していくことに役立っていると確信しております。

ルビコン川を渡ろうとする農業者を支援したい

創業 150 年のわが社は、多数の農業者とおつきあいしておりますが廃業に至る農業者からあらたな投資と挑戦をしていく農業者まで経営形態は様々です。やはり年齢も若く意識の高い農業者は、新しい道に踏み出すのに迷わない印象があります。しかし今始まっている“攻めの農業政策”に乗って進んで行くには規模を拡大し、又複数の経営体が集団になる必要もあるし、成長産業になるにはパートナーも必要です。そしてそのような挑戦する農業者のベストパートナーになれるのは、私ども肥料屋ではないかと考えています。

—— パートナーとは具体的にはどのようなものなのでしょうか？

パートナーと一口にいても、出資を求められることもあるし、マーケティングやイノベーションの相談相手として声をかけていただくこともあります。近年農業経営そのものについて相談される方が増えており、できうる限りではありますがいきめ細かく集中して応援するという姿勢をとっております。特に不安を抱えながらも投資し規模を拡大してやっていくと決意した、言ってみれば“ルビコン川を渡った”農業者には、全力で支援していきたいと思います。その時、JGAP は、私共とお客様農業者との“パートナー関係を築く”ためのプラットフォームと言っているのではないのでしょうか。

今月の新規会員ご紹介

株式会社けーあいファーム (北海道千歳市・農業生産者)	http://keiai-farm.com
岡本ファーム (北海道富良野市・農業生産者)	
株式会社富良野二百年農場 (北海道空知郡中富良野町・農業生産者)	
株式会社バロー (岐阜県多治見市・農業関連企業)	http://www.valor.co.jp
デュボン株式会社 (東京都千代田区・農業関連企業)	http://www2.dupont.com/DuPont_Home/ja_JP/
A-net ファーム十勝 (北海道上川郡清水町・農業生産者)	http://www.azukilife.com
有限会社あずま産直ねっと (群馬県伊勢崎市・農業生産者)	http://www.azuma-sun.co.jp